

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.14

日時	2013年6月2日
行脚先	篠ノ丸城
住所	兵庫県宍粟市山崎町 (播磨国)
行事名	宍粟さつき祭り

## 特徴

篠ノ丸城は貞和年間(1345-49)に赤松則村の次男・貞範が築城したと言われています。嘉吉の乱(1441年)により幕府軍の攻撃を受け、赤松氏は滅亡。篠ノ丸城は長水城とともに落城したそうです。  
その後、山名持豊が播磨守護職となりますが、赤松家の再興を目指す赤松政則は、応仁の乱(1467年)で細川勝元方(東軍)に与して軍功をあげ、播磨守護職に返り咲きます。そして赤松政則は宇野氏を西播磨の守護代に任じ、長水城を拠点に篠ノ丸城を守らせました。天文7年(1538年)、尼子氏の播磨侵攻の際、篠ノ丸城は長水城と共に落城。尼子氏は2年間支配しましたが、その後宇野氏が復活します。以後、宇野氏は西播磨の戦国領主に成長しました。  
天正4年(1576年)、羽柴秀吉の播磨侵攻が本格化すると宇野氏は上月城主赤松政範、龍野城主赤松広英等と共に毛利方に与して徹底抗戦します。しかし天正8年(1580年)、羽柴勢の猛攻を受けた長水城は落城し、篠ノ丸城も陥落しました。同年10月、黒田官兵衛は信長から播磨国宍粟郡山崎に1万石を与えられ、篠ノ丸城に入場します。  
そして天正15年(1587年)、山崎には木下勝俊が入封し、新たに支配拠点として山崎城を築いたため篠ノ丸城は廃城になりました。

## 黒田官兵衛との関わり

天正8年(1580年)10月、黒田官兵衛は信長から播磨国宍粟郡山崎に1万石を与えられ、篠ノ丸城に入場します。山崎の地を預かった黒田官兵衛は、秀吉の九州平定後、豊前中津に移封となるまで篠ノ丸城を本拠としたそうです。

## 応援品

【夏鹿毛の「行膝」1懸】  
【鹿の角の「首飾り」24体】 宍粟市様より

宍粟市様名産の鹿を用い、応援品として「行膝」と「首飾り」を頂戴致しました。「行膝(むかばき)」とは、遠行の外出・旅行・狩猟の際に両足の覆いとした布または毛皮です。中世の武士は騎馬遠行の際に必需品とし、鹿の皮で作られた腰から足先までを覆う長いものを着用したそうです。「首飾り」は「黒田二十四騎」にちなんで24体を頂戴しました。



## 記録

